

◆ 2年ぶりの藤朋祭 ◆

昨年度は臨時休校のあおりを受け、様々な学校行事の実施について判断に迷うことが多かったものの、本校では実施手法等を工夫しながら、多くの学校行事を継続した。特に秋口から冬にかけてのシーズンには、保護者の皆様のご理解、ご支援をいただきながら感染症対策を徹底し実施した修学旅行をはじめ、球技会、体育祭、校内駅伝大会の体育的行事をすべて無事に実施することができた。あらためて、生徒の皆さんと職員の協力に感謝申し上げます。

そのような中、昨年は中止せざるを得なかった文化祭（藤朋祭）。ようやく2年ぶりの開催にこぎつけた。



しかしながら例年どおりとはいかない。一般公開をあきらめ、校内発表のみでの開催とした。クラス毎に趣向を凝らしたダンス、短期間に良くまとめたものだ。練習の様子も見てきたけれど、大声を発することもなく、クラス一丸となってやってきた。審査員を務めさせてもらったが、無観客でのパフォーマンス、そこでの笑

顔はちょっと切なかった。一日も早い通常どおりの開催を願わずにはいられない。

ところで、あえて校内発表に特化したことで、文化部の作品をじっくり鑑賞する態度を育むことができたのではないだろうか。多くの生徒が、文化部の発表会場に足を運んだ。写真部は、昨年度webで開催した全国総文に参加の実績がある。美術部等も含めた他の文化部の展示も目を引くものが多かった。文芸部の皆さんの作品。今からじっくり味わおう。

「文化＝culture」ももとは「耕す」を意味するラテン語“colo”を語源とする（語源英和辞典）。今年度の文化祭は、「文化の在り方」を考える大きな転機となった。一般公開ばかりでなく、自らの校内文化に向かい合う良い機会となったと思う。これからも「感性」を深く掘り下げてもらいたいものである。

